

2025(第27回)全国中高等学生日本語学力競試大会

<2次大会（スピーチコンテスト）発表原稿>

高等部13名 / 中等部8名

社団法人 韓日協会

人はなぜ他の人に関心を持つのか？

곽예빈(カク・イエビン)

皆さん、こんにちは。

今日、私が皆さんにお話ししたいテーマは、「人はなぜ他の人に関心を持つのか？」ということです。

私たちは普段、家族や友達、周りの人たちと関わりながら生活しています。また、ニュースを見たり、ネットで情報を見たりする時も、知らない人の話に心が動かされることがありますね。では、なぜ私たちは、自分自身のことだけでなく、他の人のことにも関心を持つのでしょうか？

まず、人間は「社会的な生き物」だからだと思います。私たちは一人では生きていけません。お互いに助け合い、支え合うことで、生きていくことができます。そのためには、相手が何を考えているか、どんな状況なのかを知る必要があります。相手に関心を持つことは、良い関係を築き、コミュニティを作るための大切な第一歩なのです。

次に、「共感」する心があるからです。他の人が嬉しい時は一緒に喜び、悲しい時は胸が痛む。そんな経験は誰にでもあるでしょう。相手の気持ちに寄り添うことができるからこそ、私たちはその人に「関心」を持つのです。これは、私たちが持っている自然な心の働きだと思います。

また、私たちは「知りたい」という気持ちも持っています。他の人の人生や経験から学びたい、新しい発見をしたいという気持ちが、関心につながることもあります。

最後に、単純に「愛情」や「思いやり」の気持ちがあるからです。大切な人を大切にしたい、困っている人を助けたいという温かい気持ちが、私たちを動かしているのです。

結論として、人間が他の人に関心を持つのは、社会的なつながりを求める本能や、共感する心、そして愛情や思いやりの気持ちがあるからだと言えるでしょう。他の人に関心を持ち、良い関係を築くことは、私たち自身の人生を豊かにし、より住みやすい社会を作るためにとても大切な事だと思います。

以上です。

ご清聴ありがとうございました。

我逢人（がほうじん）

김이안(キム・イアン)

皆さんは「我逢人」という言葉の意味を知っていますか？我逢人とは「人と逢うことからすべてが始まる」という意味を持っています。私はある曲をきっかけに、初めてこの言葉を知りました。その曲との出逢いが、私の人生の価値観を大きく変えてくれたのです。

当時の私は、「人との出逢い」についてあまり深く考えたことはありませんでした。もともと私は一人で過ごすのが好きで、自分の世界にこもる時間を大切にしてきました。静かな場所で読書をしたり、音楽を聴いたり、自分のペースで何かをすることが一番心地よかったのです。正直に言うと、「寂しい」と感じたこともほとんどありませんでした。

しかし、ある日、ある友達と出逢い、それまでの生活が少しずつ変わり始めました。彼女とは自然と仲良くなり、一緒にいる時間がどんどん増えていきました。好きな音楽や趣味が似ていて、話せば話すほど共通点が見つかり、「こんなに気が合う人がいるんだ」と驚いたのを覚えています。一緒に笑ったり、ふざけたり、悩みを打ち明け合ったりする中で、「誰かと時間を共有することの温かさ」を初めて知りました。

そうした日々を共にするうちに、ふと一人になったとき、私は今まで感じたことのない「寂しさ」に気づきました。一人が好きだったはずの私が、「あの子と話したいな」「誰かと一緒にいたいな」と思うようになったのです。これは、私にとってとても大きな変化でした。この経験を通して、「人とのつながりは、私の心をこんなにも動かすものなんだ」と実感しました。

また、私が今通っている学校との出逢いも、「人との縁」がもたらしてくれたものです。進路に迷っていたとき、ある先生がこの学校を紹介してくださり、「きっとあなたに合うと思うよ」と手を差し伸べてくれました。最初は不安もありましたが、その先生の言葉を信じて入学を決めました。今思えば、その出逢いがなかったら、私はここに立っていなかったかもしれせん。

振り返ってみると、私の人生には多くの「出逢い」がありました。そして、その一つひとつが、私の考え方や価値観、生き方に大きな影響を与えてくれたのです。今日のこのスピーチ大会との出逢い、そして皆さんお一人お一人との出逢いも、きっと私の人生に新たな気づきや変化を導いてくれるでしょう。それが、良い影響になることを心から願っています。

「我逢人」という言葉は、ただの禅語ではなく、今や私自身の生き方そのものを表しているように感じます。人との出逢いによって、私は変わり、成長し、新しい世界を知ることができました。これからの人生でも、きっとまだ見ぬたくさんの人と出逢うでしょう。その中には、人生の恩人となる人もいれば、たった一言で私を励ましてくれるような人もいるかもしれません。もちろん、時には私の気持ちを傷つける人や、なかなか分かり合えない人と出逢うこともあるでしょう。それでも、私はそんな出逢いを、偶然ではなく「必然」として受け止めたいと思います。たとえそれが短い時間だったとしても、その出逢いには意味があり、私に何かを教えてくれるはずです。

「我逢人」。この言葉を胸に、これからも一人ひとりとの出逢いを大切にしながら、自分の道を歩んでいきたいと思います。

서예나(ソ・イエナ)

みなさん、こんにちは。

皆さんは「なぜ韓国にはまだ科学のノーベル賞受賞者がいないのか」と思ったことはありませんか？

韓国と日本は地理的にも文化的にも近く、どちらも科学技術が発達していますが、ノーベル賞の分野では大きな差があります。

韓国にはサムスンやLGのような世界的企業があり、技術力は世界トップレベルです。しかし基礎科学分野では、まだノーベル賞受賞者がいません。

一方、日本ではこれまでに25もの科学分野のノーベル賞を受賞しています。なぜこうした違いが生まれたのでしょうか？

私が調べた結果、日本の科学文化の特徴として、三つの点が重要だと感じました。

一つ目は「安定した研究環境」です。

日本では研究費が安定しており、研究者が長期間一つのテーマを深く追究できます。

また、日本の研究室は「弟子制度」のような仕組みで、教授が退職すると准教授が研究室を引き継ぎます。これにより、研究成果や知識が世代を超えて受け継がれ、研究の質が保たれています。

二つ目は「長い時間をかけて研究を続ける文化」です。

日本には「職人精神」があり、一つの分野に長く集中することが重視されています。これが科学者の粘り強い研究につながっています。

結果がすぐに出なくても諦めず研究を続ける姿勢が、最終的に大きな成果につながります。

大隅良典教授は40年以上同じテーマに取り組み、その努力がノーベル賞に結びつきました。

三つ目は「基礎科学への長期的な投資」です。

日本は明治維新以降、科学の重要性を認識し、政府と大学が協力して基礎研究に時間と資金をかけてきました。すぐに利益が出なくても、長期的な視点で科学を育ててきたのです。

もちろん、韓国にも強みはあります。新しいアイデアを素早く製品化し、世界市場に出す力は素晴らしいです。

しかし、ノーベル賞のような基礎科学の成果は短期間では得られません。基礎から積み上げていく力が求められます。

また、韓国の「早く早く」文化は時に研究の質や創造性を損なうこともあります。短期間で成果を出すことばかりが求められると、研究者は常に焦燥感やプレッシャーを抱え、自由な発想や深い探究が難しくなります。

教育の面でも、暗記中心の学習から、自分で問題を見つけ、考え、探究する力を育てる教育への変化が必要です。

日本の科学文化から学べることは多いです。長期的な投資、自由な研究環境、そして研究成果を世代間で引き継ぐ制度などは、韓国にとっても大いに参考になると思います。

私はいつか韓国からも、世界を驚かせるような素晴らしい科学者が現れ、ノーベル賞を受賞する日が来ると信じています。

そのとき、日本と韓国が科学で協力すれば、アジア全体の科学水準もさらに高まることでしょう。

科学に国境はありません。未来のノーベル賞は、今ここにいる私たち一人ひとりの小さな挑戦から始まるのだと思います。

ご清聴ありがとうございました。

ゼロから始まるこの世界

박예은 (パク・イエウン)

こんにちは、みなさん。私は日本への留学を夢見ているパクイエウンです。私は釜山からきました。今日、皆さんに私の夢についてお話したいと思います。やりたいこと、なりたいたいのものもなかったこの私がどのようにして、なぜ留学まで夢見るようになったのか、そこに至る経緯を皆さんに聴いていただければ幸いです。それでは聴いてください。

私は高校1年生の時までは行きたい大学、将来の希望どころか私が何に興味があって、どんなことをした時にやり甲を感じるのかさえ想像したことがありませんでした。目標もなく最善を尽くして努力しようという考えや感情をありませんでした。

学校の勉強が嫌で仕方なかったですが、だからと言って時間を無駄にってしまうことも嫌でした。このままではいけないと思ったその時、不思議にふと頭の中によぎったのが、外国語を一つ覚えればいつか役に立つのではないかという考えでした。こういう考えから目標もなしに日本語の本を買って勉強を始めるようになりました。

一人で日本語の基礎を覚えていく単純な作業は、面白いものではありませんでした。しかし、隙間時間を利用して勉強していく内に、ある瞬間から文をすらすらと読める自分に気がつきました。日本語に対する興味と面白さは学べば学ぶほど一層強固なものになっていきました。

そうやって勉強を続けていくうちに、今度はある瞬間からは自分が思ったことを自然に文章にして書けるようになってたり、日本語で考え日本で話せるようになってたりしました。普通に話ができるようになってからは、日本人とあらゆる話題で会話をすることも苦にならなくなり、日本語や韓国語の表現方法の違いで得られる文化の違いや考え方の違いまで実感するようになりました。

外国語を勉強するということは、他国の言葉で他国の人々と交流することにより、新しい価値観、多様なものの見方ができるようになることで、私自身がまた一つ成長できているんだと感じ、自分自身にぴったり合っているという感覚が私の中で確信に変わっていきました。

そして、日本に留学していろんな人に会ってみたいという思いが日増しに強くなっていきました。自分が楽しいと思えることそのものが才能ではないのか、それなら日本語という特技を活かして進路を考えてみたいという新たな目標が私の中で生まれました。

何もないゼロから始めて、勉強し始めて、1年6か月でJLPTのN1に合格するなど、勉強した分だけの成果も形として現れました。継続は力なりという諺が自分自身で体験できた1年6か月間だったと思います。私は何もなしに手持無沙汰な気持ちで取りかかった日本語の勉強でようやく夢や目標が見えてきました。

私は、将来日本への留学の後に、韓国と日本をつなぐような職業につきたいと考えています。距離的にも文化的にも近くて遠い国、日本と言われていますが、実は近くて近い国だと感じました。同じ世界に生きている世界市民として私自身がすることは何かをもう一度しっかり考えていけたらと心から思います。ご清聴ありがとうございました。

私を変化させた「好き」という感情

오지수(オ・ジス)

私はJ-POPが好きです。特に、J-POP特有の繊細な歌詞と抒情的なメロディーが大好きです。ですが、私が幼い頃には、J-POPが好きだということが恥ずかしかったです。K-POPやポップソングが好きな他の友達と上手く話し合えなかったし、そんな友達から変な人だと言われ、一人ぼっちの時間だって結構長引きました。それで、私と似てる人々が探してみたいと思ってSNSを始め、丁度あの頃、amazarashiというバンドが好きになり、何かが好きだということを恥ずかしいと思う私の考え方は大変変わりました。

私の周りとは違って、そこにはそのバンドとJ-POPが好きな人々がたくさんいました。日本語を本格的に勉強し始めたのはその時でした。私が好きなバンドの歌詞と、彼らの言葉をはっきり理解したかったし、私と同じバンドが好きな人々とももっと上手にコミュニケーションを取りたいと思ったからです。最初には言葉が通じなかったり、間違った表現を使って余計な誤解を受けたりしました。ですが、たくさんの優しい人々に出会って新しい表現を教えてもらったり、間違った表現を直してもらったりしました。今更振り返ってみると笑い話なんです、そのバンドのことが好きすぎて「妻になりたい」という表現がわからなくて「家内になりたい」なんて言ってしまったり、「ごちそうさまでした」という表現がわからなくて「いただきました」と言ってしまったりしてみんなで爆笑してしまったこともあります。これで日本語の実力も上達しましたし、何よりも私と同じものが好きな人々と話し合うことがとても楽しかったです。という中で、私はamazarashiに関してのエッセイや絵などを集めて雑誌を作る活動に志願しました。それで私とそのバンドについてのエッセイを投稿する機会を手に入れました。その時、初めて私が好きなものについて深く考えることができました。

初めてエッセイを書こうと思ってペンを取りましたが、なかなか文章が書けませんでした。その時、初めて傷ついた私に出会いました。考えた末に、私は、私の全人生をかけられるほど彼らのことが好きであり、また、彼らの歌で寂しくて苦しかった時間の中でも前向きに生きられるようになった、私もその曲からもらった温もりを他の人々に伝えてあげたいと書き終えました。そのエッセイが出来上がった時、amazarashiとJ-POPが大好きな自分の内面ときちんと向き合い、もう一歩成長することができました。

実は私は今も「好き」という感情を言い出すことが苦手です。ですから、今日のこのスピーチも私にとって私の「好き」の感情を人々の前で堂々と言えらという点でとても意味深いです。私は周りから主流じゃない何かが好きで傷つけられ、また、慰められました。私たちの人生はいつも雨曝しという文字通り雨に曝されることが多いでしょう。それでも私は、これからも私が好きなものたちを失わず、堂々と好きだと言い、前に進みたいと思います。ご清聴いただきありがとうございます。

私の幸福論

유세나(ユ・セナ)

ソウルに住んでいる高校生、ユ・セナです。よろしくお願いします。

私は、ある小さな町の話からスピーチを始めたいと思います。

その町はロゼトといいます。アメリカにある、イタリア系移民の小さな町であり、1950年から1960年の間、周りの町と比べて心臓病による死亡率が半分以下であったことから、ロゼトの奇跡と呼ばれ注目を集めました。低い死亡率の理由は、喫煙や飲酒、食事や運動などでは説明がつかず、その後の研究の結果、最大の理由はよく形成されたコミュニティ文化にあるという結論になりました。ロゼトの人々は、連帯感を持ち、常に交流し、助け合っており、このような人と人とのつながりが、幸福感をもたらし、健康に良い影響を与えたというのです。私はこの結論に感動し、自分の生き方を考えるきっかけとなりました。

私たちの社会は、民主主義の実践、個人の権利向上、グローバル化、情報化などを通じて発展してきました。しかしその一方で、競争社会のストレスや、個人主義による孤独化などの問題も抱えています。いつのまにか、近所の人との軽い会話も交わさなくなり、簡単な挨拶さえしなくなってきました。これを自由で気楽だと見ることもできますが、実際に多くの人が不安や寂しさを感じて生きており、これは日本、韓国に限らないことだと思います。

このような現代社会の中で、健康で幸せに生きていくためにはどうすればよいのでしょうか。私は、ロゼトの奇跡がヒントになると考えます。つまり、人と人との直接のつながりです。ただ、実際には、家の周りや、学校やバスや電車の中でも、一日に何度もチャンスがあっても、交流や助け合いの一言を口にするのがなんだか気まずくて怖く感じられ、機会を逃してしまいがちです。私自身、コンビニのラーメン調理機の前で困っていた外国人観光客を目の前にしたとき、お手伝いを申し出ることもできたはずなのに、その一言を切り出すことができず、立ちすくんでしまったことがあります。このことはずっとずっと私の心に棘のように残りました。

そうした中、日本語を学びながら「思いやり」という言葉に出会いました。まだその意味を完全に理解したとは言えませんが、「配慮、共感」などの言葉では表現しきれない、相手の立場になって考える心を表すものと把握しています。私はこれだと思いました。自分よりも相手を思う心からであれば、一言を切り出す勇気が湧いてくるような気がしたのです。

これからの私は、ロゼトの奇跡を胸に、一歩前に踏み出そうと強く思います。周囲に目を向け、思いやりの心を持って、自分から交流し、共感し、助け合うことのできる人間になりたいです。人と人とのつながりを積み重ねていくことで、相手も自分も幸せを感じることができ、心身共に健康に生きることができれば、これほど素晴らしいことはありません。そしてその頃には、「思いやり」の意味も完全に理解できることと思います。

ハッピーエンドな別れ

이나윤(イ・ナユン)

こんにちは。

本日発表させていただく、釜山国際高校1年生イナユンと申します。

私が皆さんにお話ししたいことは、友情、そして別れることに関してです。

どうぞよろしくお願いします。

皆さんは映画「ハッピーエンド」をご存知でしょうか。

この映画には5人の高校生が出ています。

その中でも主人公のコウとユータは高校を卒業しても一緒にいながら天下をとるミュージシャンになろうと約束します。しかし、だんだん社会は変わっていき、コウは音楽なんかに夢中になっている場合ではないと思い、外国人や移民者の権利のためのデモに参加したりしながらユータとは違う道を歩み始めます。コウとユータは相変わらず友達同士ですが、2人の行く道は変わっていきました。

映画の結末で2人は高校の卒業式を終えてお互いに手を振りながらこう言います。

「バイバイ」

そしてユータは今でもコウのことを愛するが、今後コウと会う日はないと実感します。コウとはもう離れてしまったんだと。

皆さんには大切な人と別れたことがありますか。私には沢山ありました。いつまでも一緒だよと言っていた友達とは中学校の卒業とともに連絡が途絶えてしまい、日本の旅行中に会った日本人の友達とはその後再会することはありませんでした。もちろん友達との離れ離れは辛いです。私も別れるのが嫌で何度も泣きました。しかし、私はある日、突然気づきました。私と連絡が途絶えたあの友達とのエンディングはハッピーエンドなんだということ。

あの友達は私に愛する方法を教えてくれたし、愛される方法を教えてくれました。私たちは一日中遊んでいたし、夏の暑い日でさえもお互いの隣に座っていました。そんな友達と笑顔でさようならを言えたのに、悲しむ必要があるのでしょうか。もし、誰かが私たちの別れる未来を分かっていたとしても、

友達と一緒にいたあの頃に戻りたいのか？と聞くと、私は戻りたいと答えます。映画のユータも私と同じ返事をすると思います。ある関係の意味はその関係の結末が決めるものではなく、その結末に行くまでの過程が作るものだからです。そして人との縁とは、予想できないもので、再会することももちろんあります。例えば、去者必反という言葉があります。去った者は必ず帰ってくるという意味です。私はこの言葉を信じます。今は私たちの元から離れた友達も、いつかはまた私たちの元に帰ってくると信じてます。だから私は今のハッピーエンドを抱いたまままた新たなハッピースタートを待ちます。そう思っていれば、必ず縁はまた私たちの元に帰ってくる。別れが悲しくて泣くことも少しは減るはずです。

本日私の発表を聞いて、皆さんに別れの受け入れ方を知ってもらえたのなら私は嬉しいです。

皆さんにハッピーエンドが、そしてハッピースタートが訪ねることを願いながら、本日の発表を終わらせていただきます。

最後までご清聴ありがとうございました。

イナユンでした。

皆さんは、コミュニケーションとは何だと思っていますか？職場の人に仕事を手伝ってもらったためだったり、落ち込んでいる友達を慰めるためだったり、あるいは好きな女の子に気持ちを伝えるためだったり。人間はこのようなコミュニケーションの仕方を子供から大人へと成長するにつれて、自然に習得していきます。これは社会的動物である人間という生き物の属性なんです。人間は他の動物に比べ、より優れた言語を持っています。動物の言語は本能的な反応に近いので、動物はコミュニケーションをする上で相手の感情やそれを表す表情、相手の行動を理解することが不可欠です。一方、人間が使用する言語は、より複雑なので、動物よりもっと具体的な疎通が可能になります。ここまで優れた「言語」という道具を持っていながらも、日常生活の中で、私たちは、「コミュニケーションに自信がない」と言う人々をよく目にします。最近では、「コミュ障」という言葉を耳にする頻度も大幅に増えました。なぜ現代人は、コミュニケーションで悩むのでしょうか。私はその原因が「他人との触れ合いの不足」だと思います。伝統的な人間のコミュニケーションは、「他人との触れ合い」を前提としていました。直接顔を合わせて、自分が放つ言葉に相手はどう反応するのか。それを見て次の言葉を考える。これが正に、人間本来のコミュニケーションの流儀なのです。このような伝統的コミュニケーションは時代を経て変わってきました。直接顔を合わせなくても、コミュニケーションができるようになったのです。考えてみてください。30年前のコミュニケーションと今のコミュニケーションの形、何か変わったと思いませんか？平成7年の私の父は、好きな女の子に告白するとき、直接顔を見て、「好きです、付き合ってください」と言っただけです。しかし令和7年の私はLINEで告白をします。周りの友達たちからも「昨日A子ちゃんにLINEで告げたけど、フラれちゃった」みたいなことを言われることが大半です。科学技術の発展に伴い、非対面の疎通を可能にする電話やSNS、そしてメッセージがコミュニケーションをする上での必要不可欠な道具になったのです。しかし、私はこのような便利さが、人間本来のコミュニケーション能力を害していると思います。確かに非対面でのコミュニケーションは直接顔を合わせるよりその心理的負担は低いですが、これがむしろ「他人の気持ちを読み取る」という人間本来のコミュニケーションの流儀の後退を招くのです。私はコミュニケーションというものは元々勇気がいることだと思います。直接顔を合わせ、自分の考えを言葉に出し、それを他人に伝えることは怖いものかもしれません。しかし勇気を出して、他人と触れ合うことから、本物のコミュニケーションは始まります。もしコミュニケーションで困っているのなら。些細なことでもいいので、自分の気持ちを伝えてみたらいかがでしょうか。伝えないと、何も始まりません。コミュニケーションで皆さんの人生がより豊かになりますように、幸多からんことを心から願います。ご清聴ありがとうございました。

皆さん、こんにちは。

今日は、私がシンガポールで出会った一人の日本人との特別な思い出についてお話ししたいと思います。 そのとき、私は一人でシンガポールを旅行していました。 久々の一人旅で、少し不安もありましたが、自分だけのペースでゆっくり旅を楽しむことにワクワクしていました。 ある夜、マリーナベイ・サンズの近くで夜景を背景に写真を撮ろうとしていた時のことです。 自撮りではうまく撮れずに悩んでいると、一人の男の子が近づいてきて、「写真を撮ってあげますか？」と日本語で声をかけてくれました。 彼は19歳の日本人で、高校を卒業したばかりだと言っていました。 聞くと、彼も私と同じように一人で自由旅行をしている途中でした。 私は「お願いします」と言ってスマートフォンを渡しました。 彼は丁寧に何枚も写真を撮ってくれて、とても親切でした。 写真を確認したあと、彼が「よかったら、一緒に晩ご飯を食べませんか？」と笑顔で言いました。 私は一人旅だったこともあり、誰かと話したい気分だったので、「いいですよ」と答えて、一緒に近くのホーカーセンターへ行くことになりました。 ホーカーセンターにはさまざまな国の料理があり、私はチキンライスを、彼はサテを選びました。 テーブルに座って食べながら、いろいろな話をしました。 彼は大学入学前に、海外の文化を体験したくてこの旅を計画したそうです。 話していくうちに、私たちは趣味の話で盛り上がりました。 彼はサッカーが大好きで、特に日本代表の試合をよく観ていると言っていました。 私は詳しくはありませんでしたが、彼が嬉しそうに好きな選手やワールドカップの話をする姿を見て、聞いているだけで楽しくなりました。 さらに、アニメの話もするようになりました。 彼は「進撃の巨人」や「君の名は」が好きで、キャラクターの魅力やストーリーについて熱心に話してくれました。 私もアニメが好きだったので、お互いのおすすめ作品を紹介し合いました。 日本の俳優やドラマの話、韓国のK-POPについても語り合い、自然に文化交流が生まれました。 食後、私たちは地下鉄の駅まで一緒に歩きました。 夜風が心地よく、まるで友達と夜の街を歩いているような気分でした。 駅に着いたとき、彼は「今日はありがとう。 またどこかで会えたらうれしいね」と私に言ってくれました。 短い時間でしたが、この出会いは私にとって忘れられない思い出となりました。 一人旅の中で、同じように一人で旅をしている人と出会い、心を通わせることができたことが、とても嬉しかったです。 この経験から、私は人との出会いの大切さと、異文化を楽しむ心を学びました。 将来、私も誰かの思い出に残るような、親切でフレンドリーな旅人になりたいと思います。 ご清聴ありがとうございました。

初めて出会った本当の日本

임세현(イム・セヒョン)

皆さん、こんにちは。イム・セヒョンと申します。よろしくお願いします。

次は東京、東京駅です。御電池は左側です。

この言葉は私が生まれて初めて日本へ行って、初めて東京駅に着いた時に聞いた初めての日本語です。皆さんは初めて日本に行った時のことを覚えていますか？覚えてる人も、覚えていない人もいると思いますが、日本留学を目指している私にとっては何もかもがワクワクしてたまりませんでした。アニメやテレビの画面にしか見られなかった憧れの国へ着いたからです。

ワクワクする気持ちで飛行機から降り、空港を出てバスを待っている途中、私は暑い日差しと紫外線にびっくりしました。韓国より湿っぽいことは承知の上でしたが実際に感じたのは初めてだったからです。そして車達も全部左側通行をやっている姿も見慣れない風景でした。前から知っている事実だったはずなのに、いざ目の前で見たら不思議なくらいに新しく感じました。また現金をよく使う日本へコインケースを持ってこなかったので困ったこともありました。

ここで私は気づきました。私が他の国へ行って生活することをあまく見ていたんだと。日本文化に興味があるし、学校では他の子達とは違う留学という道を歩いている私としては、知らぬまにうぬぼれていたんです。きっと私なら日本へ行って暮らすのくらいは問題ないと思っていったんです。

だが現実はそうではありませんでした。ひいては韓国とは正反対の意味を持った言葉もありました。それは八方美人という言葉です。旅行中、日本人の友達と楽しく話していました。私が友達に褒め言葉として“君は八方美人だね”と言いましたんですけど日本で八方美人という言葉は褒め言葉ではないと言われました。どんな意味で使うのか聞いてみたら、誰に対してもいい顔をするし、自分を守るために嘘や悪口を言う人のことだと言われました。

国同士の距離も近いし似ているところもたくさんあると思ったけど、こんな意外なところで違いがあるなんて私は驚きました。こうして私は井の中の蛙に過ぎないって思いながら恥ずかしくなっちゃいました。

皆さんもこういう経験をしたことがありますか？だとしても大丈夫です。なぜならこれは個人の力では乗り越えない壁だからです。単純に知識をよく知っていることと直接その身で経験することは大きな差が存在します。文化の違いはその国ならではの固有のものだからゆえ悟るのに長い時間がかかります。

ここで私は本当の理解とは経験から始まることを解りました。だから私はこの先直接ぶつかって学びながら一步步本当の意味の理解を深めていくつもりです。このことを知らずに井の中の蛙だと思っていた過去の私が恥ずかしくなっちゃいました。

以上です。お聞きなさってありがとうございました。

「やってみる」から始まる夢

장수아(チャン・スア)

こんにちは。 皆さんは夢がありますか？もしまだ夢がなくても大丈夫です。
今日は夢に向かって歩いている私の物語をお話ししたいと思います。
子どもの頃、私は美術、ピアノ、柔道、剣道など様々なことを習いました。
しかし、根気がなかった私は全て半年を続けられずに諦めてしまいました。
そのせいか、何かを習い始める時は‘私が本気でやりたいことなのかな’と悩むようになり
ました。
そんなある日、私の携帯が突然壊れてしまい、偶然にあるアニメを見ることになりました。
そのアニメは思ったより面白くて、私は夜通し見るほど夢中になりました。
その時、ふと‘字幕なしでアニメを見てみたい’と思い、中学1年生の時、日本語の塾に通
い始めました。
ひらがな、カタカナから簡単な単語を習い始め、次第に難しい漢字も理解できるようにな
りました。
そうして、日本語への興味は続き、中学3年生の時JLPT N1級を取りました。
しかし、この後、私は新たな壁にぶつかりました。
なぜなら「夢」がなかったからです。
‘日本で暮らしたい’という漠然とした望みはありましたが、日本では日本語ができるのが
特別な能力ではないため、自分ならではの特技を改めて探さなければなりませんでした。
そこで、以前からやってみたかった料理に挑戦することにしました。
調理科に進学した後、料理が得意な友達がたくさんいましたが、私は包丁すら握ったことが
ありませんでした。
日本語に自信を持っていた私は初めて「他の人よりできない」という恥ずかしい思いを感じ
ました。
みんなに追いつこうと頑張りましたが、興味は長続きせず資格試験にも落ちてしまいました。
大きな喪失感に陥った私にお父さんはこう言ってくれました。
“職業にしなくてもいいからいろんなことを経験してみなよ。その経験が今すぐには役に立
たなくてもいつか君の人生に必要な瞬間が来るからね。失敗しても大丈夫だよ。一番大切な
のは失敗を恐れずに挑戦する勇気なんだよ。” その言葉を聞いてから私は何かを習う時、
結果より経験そのものを大切にするようになり、もう挑戦を怖がらないようになりました。
皆さん、まだ夢がなくても大丈夫です。
私もまだ“将来になにになりたいの？”という質問にはすぐに答えることができません。し
かし、さまざまなことを挑戦する中で日本語をずっと学び続けたいという夢を見つけました。

このように大きな目標でなくても、「これをやってみたい」「もっと知りたい」と思うこと
があるならそれも立派な夢になれると思います。

皆さんも、無理に夢を探そうとせず、気軽な気持ちで様々なことに挑戦してみてください

。

きっとその中で、自分が本当にやりたいことを見つけられるはずです。

ご清聴、ありがとうございました。

自然を守る秘密の英雄たち

최민준 (チェ・ミンジュン)

はるか昔から今に至るまで、地球はいつも私たちに何もかも恵んでくれました。
きれいな空気、澄んだ水、青い森、温かい太陽の光まで——
私たちが生きる上で必要な、ありとあらゆるものを対価なく与えてくれたのです。
地球は、まさに人類の一番の旧友であり、優しく包み込んでくれる母でもありました。
しかし、人間はその無償の愛にどう報ってきたのでしょうか。
欲望は尽きることなく、ついには命までも奪おうとしているのです。
——友であり、母である存在の命を、自らの手で。
山を削り、川を汚し、空は煙で覆われています。
人間の便利さや利益のために森を切り開き、
海をごみで埋め尽くし、空を濁らせるほどのガスを噴き出してきました。
その結果、私たちは自然の怒りを、身をもって経験しています。
春夏秋冬のリズムは狂い、真冬の桜や初夏の雪といった異常気象は、もはや珍しいことでは
ありません。
猛暑、洪水、暴風、干ばつ——
世界のあちこちで、気象災害は日常の風景となりつつあります。
地球はいま、人間に向けて警鐘を鳴らしています。
「もう、やめなさい」と。
それでもなお、地球とまた手をつなごうとする人々がいます。
環境のために静かに動いている、「ヒーロー」たちです。
彼らは映画のヒーローのようにスーツを着たり、超能力を持つ人ではありません。
私のような学生であり、会社員であり、隣人であり、友達でもある普通の人たちです。
このヒーローたちは、プラスチックの代わりに環境に優しい素材を使い、
少しでも汚染を減らす技術を開発したり、
直接町に出向いてごみを拾い、普段見過ごされがちな問題と静かに闘っています。
彼らは地球の痛みに気づき、人間の誤りを反省しながら、
和解の架け橋になろうとしている——地球の守り人です。
そして、私たちもそのヒーローの一員になることは、心ひとつでいつでも可能なのです。
地球はまだ、私たちを完全には見捨ててはいません。
だからこそ、異常気象の中でも、私たちは再び青い空を、澄んだ川を、そして健康な森を取り
戻すことができるのです。
地球と和解する道は、思っているほど遠くはありません。
たった一人の小さな行動が、やがて誰かに影響を与え、
それが世界を変える大きな波になることもあるのです。
今日、この場で私たちは決意すべきです。
地球のための行動を「特別な誰か」に任せるのではなく、
私たち一人ひとりが、地球を守るヒーローチームの一員になれるということを。
「誰か」ではなく、「私」が一步を踏み出す。
その一步こそが、地球との和解の始まりになるのだと私は思います。

日本の歌がくれた魔法

최승은(チェ・スンウン)

皆さん、こんにちは。

皆さんは日本の歌が好きですか？ J-POPやボカロ、アニメソングなど。

日本語に興味深い皆さんは多分、このような歌がお好きではないかと思います。でしたら、皆さんは日本の歌の魔法ということについて、ご存じでしょうか。今から、私の人生を変えるようになった、魔法の話を聞いていただきたいと思います。小学校一年生のとき、友達のいない退屈な日常を過ごしていましたが、偶然、日本のある歌を聴きました。あの歌の主人公は初音ミク。当時の有名なバーチャルシンガーでした。ミクを初めてみた時、ネギを振りながら楽しく歌をうたっている、青い髪と目のきれいな少女の魅力にハマってしまいました。毎日、彼女の歌を聞いて、歌いました。バーチャルシンガーの歌は、ひとりぼっちだった私の友達になってくれたのです。初音ミクをはじめ、J-POPやアニメソングにも興味を持つようになりました。あの時、わたしは思いました。「これらの歌を韓国語の字幕なしで聴きたい！」と。小学5年生の時から日本語を一人で勉強しはじめました。本屋で日本語学習の本を買ったり、ネット上の無料講義を受けたりして、毎日まじめに勉強した結果、なんと中学1年生のときは、JLPT N2に合格しました。日本語の勉強を家族のみんなから褒められ、また応援してもらったおかげです。

私は中学3年生の時、JLPT N1を挑戦して、ついに合格しました。そして、切実に願っていた「韓国語の字幕なし」で歌を聞き取ることができた時は、私の中に、まるで魔法みたいに、新しい世界がひろげられました。もちろん、独学で日本語を勉強したので、あまり理解できなかった表現も、難しい単語もたくさんありました。けれども、日本語が少しずつわかるようになって幸せを感じた経験も、忘れがたい思い出となりました。私は日本の歌のおかげで日本語能力試験1級を取って、勉強する喜びもわかるようになりました。幼い時の私に日本の歌が魔法をかけてくれたと、私は思っています。日本の歌は日本と韓国を超えて、全世界の人々の心を癒したり、夢を失った人たちに生きていく勇気を励ましています。歌を歌いながら、泣いたり笑ったりする人の心を理解する、これが「日本の歌の魔法」ではなくて何でしょうか。私は日本の歌を通じて、言語を学ぶ楽しみだけではなく、となりの国の日本文化を理解して、言葉が通じあえる、素晴らしい経験をしました。歌は言語と文化を超え、韓国人と日本人がもっとお互いを理解しあい、友情を分かち合う役割をしていると思います。現在、韓国と日本の若い世代は、K-POPと韓国の文化、J-POPと日本の文化を活発に楽しみながら、互いにポジティブな影響を与え合っています。こうした文化交流は、相互理解と親密感を高めて、両国の新しい未来に繋がります。歌は、世界人の心をつなぐ、本当の魔法です。どうか、皆さんにも「日本の歌の魔法」がありますように！

千年の祭り、江陵ダノ祭

권나현 (クオン・ナヒョン)

皆さん、こんにちは。

私は江陵ソルオル中学校3年生のクオンナヒョンと申します。

本日は私が住んでいる江陵市という町の自慢であるダノという祭りをご紹介しますとこの場に立ちました。

ほとんどの方は韓国の美しい地域と言えはすぐソウルを思い出しますが、一方で私は美しい山ときれいな海がある江陵を思い出します。この場では江陵市の自然ではなく他の魅力について皆さんにお知らせしようと思います。皆さん、江陵市の魅力にはまる準備はできましたか。

それでは、話を始めたいと思います。皆さんは江陵ダノ祭と言う祭を聞いたことがありますか。ダノ祭は毎年江陵で開催されているおよそ千年の伝統を持つ韓国を代表する祭りで、特に今年はダノ祭が文化遺産に登録されてから20年になりました。今度はそれを記念するためにさまざまな体験や行事が行われる予定です。

ダノ祭は農業と漁が豊かになり、家内の福の願いが叶えるように天の神様に祈る祭祀から始まって今は町を代表する大きな祭りになりました。

この祭りでは大昔からの風俗や特別な行事を体験することができます。例えば江陵の住民たちは神様に捧げる酒を作るために米を集めます。その後、周囲の人々に米で作った酒を配ります。

そしてダノ祭を代表する公演であるカンノ仮面劇を含めて観光客が直接体験できる行事も沢山あります。その例としてはスリチ餅を味見したり、菖蒲に髪を洗いたりすることができますし、またシルム、綱引き、ブランコ乗りなど子供から大人まで楽しめる祭りだと思います。

ダノ祭のフィナーレといえは なんととっても 最終日にある花火大会なんです、この花火大会を見るために全国から江陵を訪ねています。あと、お祭りの入場料は全期間無料で、誰でも気軽に楽しむことができます。私は一日では足りないほど皆さんを楽しませるものがたくさんあると思います。

このようにダノは地域の行事を超え、韓国を代表する祭りになりました。さらに世界中の色々な方々が一緒に参加して楽しめる祭りとして発展しつつあります。今回の祭りを通じて江陵の文化と伝統を感じる特別な機会とするのはいかがでしょうか。

ちょうど今はダノ祭の期間です。6月3日までダノ祭の行事が行われますので、皆さんが今度江陵に旅行にいらっしゃったらきっと素敵な思い出になると思います。

皆さんも自分の町の祭りに関心を持って直接体験してみるのはいかがでしょうか。自分たちが住んでいる地域の祭りを勉強し体験することはその地域を愛する一歩になるはずです。

ご清聴ありがとうございました。

私は自然のぬくもりをカタチにする人になりたいです。

김예진(キム・イエジン)

私は、自然のぬくもりをカタチにする建築家になりたいです。

皆さんは勉強で疲れた時、どのようにして元気を取り戻していますか。私はまず、外に出て散歩をします。友達とおしゃべりしながら歩いたり、一人で好きな歌を聴きながら道を歩いたりします。歩いていると、今の季節の風、青空、草花の香り、道端のタンポポや木漏れ日が、そっと私の心に余裕を吹き込んでくれます。また、どうしても集中できないときには、家の前の図書館で本を読みます。日差しが降り注ぐ窓辺に座っていると、暖かな光に包まれ、本を読み終える頃には美しい夕焼けがみえます。このように自然が与えてくれる穏やかさや、建物が与えてくれる優しい空間は、私にとってインスピレーションであり、心を癒してくれる存在です。同時に、小さな夢が芽生えました。それは、育つ子どもたちにも、雨に濡れた土の匂いの豊かさや、クローバーの中の四つ葉の幸せを知ってもらいたい、という願いです。

この夢は時間がたつにつれて、「みんなが自然のぬくもりに包まれて楽に過ごせる空間をつくりたい」という、より大きな夢へと膨らんでいきました。私は、自分の夢を叶えるために、本やドキュメンタリー、専門家のインタビューなどを調べ始めました。多くの建築家の話を読みながら、漠然としていた私の夢は次第に「建築家になりたい」というはっきりした目標へと変わりました。

さらに探求を進めるうちに、日本の建築文化にも興味を持つようになりました。日本は昔から世界的に知られる建築大国で、特に木のような自然素材を現代的に再解釈し、自然と調和した建築をすることで魅力を感じました。そんな日本の建築文化を、ぜひ自分の目で見て学びたいと思うようになったのです。

そして私は、日本に留学して日本独自の建築文化を直接学ぶという新たな目標も持ちました。建築家・隈研吾さんが設計した梼原ウッドブリッジミュージアムや京都の伝統的な和風建築を訪れ、「自然に寄り添う建築」とは何かを、これまでとは違う視点で学びたいと思っています。また、外見だけでなく、人々が安心して快適に暮らせるよう、耐震設計などの技術も学びたいと思っています。

私の最終的な目標は、日本の伝統的な建築文化と現代建築技術、そして韓国の建築文化の良さを融合させて、自然と現代技術が調和した自分だけの建物を建てることです。両国の魅力を活かし、誰もがその建物の中で安らぎを感じられるような空間を作りたいのです。

ここで話した私の夢が、十年後、二十年後には実現することを願っています。そして、いつか私自身も世界で活躍する建築家になれるよう、一生懸命頑張っていきたいと思います。

韓日経済協力の方向性

송호근 (ソン・ヒョグン)

こんにちは。本日、最近の東アジアの様子を見ながら、韓国と日本の経済関係についてお話しします。

今、東アジアはいろいろな問題が起きています。例えば、アメリカと中国の関係が悪化されたことや、半導体という電子部品をめぐる国同士の争い、ロシアーウクライナの戦争の長期化などです。その中で、アジア国々は、安定的な経済パートナーを見つけることがとても大切になっています。

その中で、韓国と日本は、お互いに助け合える大切な相手です。特に、半導体の素材や部品では、韓国と日本は強く繋がっています。2019年では、日本が韓国への輸出を一部止めたことがありましたが、話し合いや交渉を重ねて、少しずつ協力が戻ってきました。今では、経済面で再び協力しようという動きが見られます。

また、地球温暖化や環境問題への対策は、経済にとっても重要なテーマです。韓国と日本は環境にやさしい技術の開発や投資を通じて、新しい産業やビジネスチャンスを生み出しています。例えば、再生可能エネルギーの研究や、水素を使った車の開発などで、両国の企業

が協力しています。

最近では、アメリカが主導する‘チップ4同盟’というグループに、韓国と日本も入っています。この中で、技術の協力や共同投資を進め、世界市場での競争力を高めようとしています。

こうした協力は、韓国や日本の経済にとってプラスになるだけでなく、他の国々にもいい影響を与えます。経済がよくなれば、仕事も増え人々の生活も豊かになります。だからこそ、協力はとても重要です。

もちろん、歴史のことで、お互いを信じられない気持ちや、国民どうしのきもちのずれは今でも残っています。でも、経済分野では、お互いの利益を大切にしながら協力していくことが、今一番大切なことのひとつだと思います。経済協力を通じて、信頼も少しずつ深まってくしょう。

これからは、けんかや対立ではなく、助け合いや共に成長することを目指す経済パートナーとして、韓国と日本がもっと強く手をつないでいくべきだとおもいます。そうすることで、東アジアの未来も明るくなります。

小さな一歩でも、未来を変える大きな力になります。だからこそ、今こそ韓国と日本が手を取り合い、協力していくことが大切です。

ご清聴ありがとうございます。

ある女優の夢

신하랑(シン・ハラン)

皆様、こんにちは。

新一(シンイル)中学校2年生のシン・ハランと申します。

今日は、ある一人の女優の物語をお話しをしようと思います。

その女優は、子供の頃 特別な才能もなく、好きなこともなくて自分に自信を持てずに毎日を過ごしていました。

何かに夢中になることもなく、ただ日々が過ぎていくだけ。

彼女が小学校4年生だったある日、彼女は偶然インターネットで日本の芸能人の動画を見ました。

なぜかその瞬間、彼女の心を動かされました。

何か初めて好きになったんです。

その出会いが彼女の人生を大きく変えることになります。

そこから彼女は、自分の意志で日本語の勉強を始めました。

最初は、字幕なしで番組を理解したいという小さな目標でしたが、だんだんと日本という国に自体に興味を持ち、日本のドラマを通じて本当の夢と出会うことになります。

日本のドラマは、彼女にとってただの娯楽だけではありませんでした。

さまざまな職業のリアルな姿、人間関係の葛藤、そしてそこから生まれる感動や勇気。

ドラマの中で描かれるメッセージが、彼女の心に深く響きました。

「私も、こんなふう to 人の心を動かせる存在になりたい」と強く願うようになりました。

彼女の夢は「人に夢と勇気を渡せる女優になること」ただ有名になりたいのではありませんでした。

自分の演技を通して、誰かが前を向けるような力を与えたい。それが彼女の望みでした。

例えば夢がなくて不安な人、繰り返す失敗で立ち止まっている人、自分を諦めよう

としている人など。

そんな人たちの心にそっと届く演技ができる女優になること。それが、彼女の目指す姿でした。

もちろん、夢への道は簡単ではありませんでした。

なんども壁にぶつかり失敗し、泣きたり、諦めなくなったり。

でも彼女は信じていました。

「失敗は終わりじゃない。新しい始まりのきっかけだ」と。

だから、何度転んでも立ち上がりました。そうやって、少しずつ前に進んでいき、その少女の夢は叶えている人々に感動と勇気を届けるようになりました。

実は、この物語の少女こそ、私自身なのです。

このお話は、私が思い描いた「未来の私」の物語です。

本当に女優になれるかは、まだわかりません。

でも私は、この物語の本当の主人公になれるように、一歩ずつ進んでいきたいのです。

そしていつか、人に夢と勇気を渡せる、心を動かせる演技ができる女優になること。

それが、私が日本が好きになって見つけた、かけがえのない夢です。

私はこの夢を大切に、これからも努力を続けていきます。

最後まで丁寧にご清聴いただき、心より感謝申し上げます。

友情と恋はどういう違いがあるのか

이명진(イ・ミョンジン)

おはようございます 私はイ・ミョンジンと申します。

皆さんは友情と恋に違いがあると思いますか？私はとても気の合う友達と遊ぶとき「あ、皆ほんと好きだなー」と考えます。ですがそう言った「好き」は恋愛的感情とは違っていきましてそれをなんと言えればいいのが時々悩んでしまうんです。それはなにか言葉では説明しきれない複雑な気持ちなんじゃないのでしょうか？だとすると私は友達を「好き」になってはいけないのでしょうか？友情の好きと恋の好きにどういった違いがあるのでしょうか？今回のスピーチで私はこの話題について話したいと思います。

まず、友情と恋の共通点について話してみしましょう。どちらとも信頼関係を元により深くその感情を育てていきます。もしも信頼していない相手に恋心が生まれたってその感情は長く持たないでしょう。もちろん友情も信頼し合えるからこそそう呼べるのではないかと思います。それにそのどちらともお互いに合わせてく感情です。この関係を長くより豊かに築くにはたくさん会話を重ねて時には言い争ったりもしながら互いの合わないところを分かち合う。そんなところで友情と恋はとても似ているのかも知れません。

それなら今度はその2つの違いについて話してみしましょう。私が思うに友情と恋の最も大きな違いは「いつ知れず頭から忘れかかっていた記憶がふと思い出した時にどんな感情となるのか」だと思いました。良く分からない方々のためにいくつか質問してみます。皆さんが小學校で「それなりに仲が良くて一緒に遊んだりしていたクラスメイト」を考えてみてください。急にその記憶が蘇りましたか？今度は「そのクラスで一番好きだった子」「考えてみてください。

私が先ほどした質問を聞いてどんな感じでしたか？

もちろん2つの質問どちらも同じ感情だった方もいらっしゃるかも知れません。ですが、記憶からうっすら消えていたのにも「好きだった子」を想像するだけで心がときめいてませんでしたか？私はそれが何より大きい違いなんじゃないかと思います。

久々に考えたのにも自分に嬉しさを伝えてくれる。友情と恋はで々に日常の嬉しさを味わえる素敵な思い出じゃないのでしょうか？私たちはその感情を間近で感じられる青春の真ん中に落ちています。今でしかないこの大切な思い出が素敵な感情と蘇る日を夢見ながらスピーチを終わらせたいと思います。聞いてくださりありがとうございました。

珍島犬について

이은지(イオンジ)

皆さん、こんにちは。

私はこれから韓国の伝統的な犬、珍島犬についてお話します。

まず、韓国を代表する犬はむく犬、ブンサンケなどがありますが、珍島犬はその一種です。珍島犬は1938年に朝鮮総督府で指定されて保護を受けて1962年に国家遺産保護法によって天然記念物として指定され今日にいたっています。天然記念物として登録された個体数は2024年基準1262匹です。

珍島犬は中型犬であり、背は45~55cmぐらい、体重は15~20kgぐらいになります。足が長いで体高が高いでセパドとかゴールデンレトリバーようです。珍島犬は白、黄色、黒色などいろんな種類がありますが、たまたまに色が混ざった方もありますが、天然記念物としては白と黄色だけで認定されています。ですが、白、黄色のすべての珍島が指定されるのじゃないし、珍島郡の審査を受け、通過したら天然記念物として保護を受けます。

珍島犬は忠誠心と服従心が強い犬です。そして、帰巢本能も強いです。ひとりに忠誠する直向きの象徴としても知れています。だが、わからない人が近づいたら境界を持つ性格を持っています。そうだから、珍島は昔から「家を守る犬」などでよく使えて来ました。敵対心を持っている相手には少し気性が荒くなりますが、家族にはいたずらをしたり、温厚な姿を見せたりします。

珍島犬は性格が敏捷だし、好戦的だし図体に比べて戦いもよく上手です。珍島犬は活動的ですから十分な運動が必要です。運動を十分にできなかつたら、ストレスを受けます。そうですから、一日散歩を度々に30分以上するのがいいです。

珍島は未来、ドラマにもっと出たら良いじゃないかと思います。珍島が私たちのドラマにもっと出たら、外国人たちに報告もなるし、韓国の文化に感心がある外国人に知らせることができるだと思います。韓国人は珍島と他の伝統的な犬を覚えて関連な問題に関心を持つ、解決すると努力すれば、伝統犬の保護がもっとできるんじゃないかと思っています。

私は将来、珍島犬を広い家で育ててみたいです。そして一緒に庭で、はしゃぎながら走りたり一緒に寝たりして深い絆を積むって面白い記憶を作りたいですもちろん、大変な記憶も怒った記憶も全部思い出になります。でも、あったら面白かったのが良いじゃないかと思います。そうして何年一緒に住んでるかはわからないが、住む間にあれこれ「楽しかった」といえる記憶を積みたいです。

以上で、珍島犬の紹介を終わります。ご清聴ありがとうございました。

コンビニ愛

이재문(イ・ジェムン)

皆さんは普段コンビニエンスストア、略してコンビニをよく利用しますか。私は学校の帰りや塾の帰りによく利用しています。日本へ行った時にもお菓子や飲み物を買いにコンビニへ行きました。

韓国や日本の外にもいろいろな国にコンビニはありますが、国によって当然、コンビニで出来ることに違いがあります。売っている物やコンビニ内でできる事などです。

今日、私は自分が利用してみて感じた韓国と日本のコンビニの違いについて語りたいと思います。

まず、コンビニのブランドについてです。韓国はCU、セブンイレブン、GS25の三つがその大半を占めています。日本は皆さんもご存じのセブンイレブンの外、ローソン、ファミリーマートが全国でよく見られ、その他に地域ごとにいくつかブランドがあります。

次に、店舗の広さも違います。これはおそらくコンビニの「建物」と「機能」の違いからで、韓国のコンビニは建物の1階に店舗があったり、ガソリンスタンドなどと一緒にある場合が多いです。一方、日本のコンビニは単独の建物であることが多いです。だから日本のコンビニの方が広いのです。

機能からも見てみたいと思います。韓国では宅配便を受け付けたり、バスカードにお金をチャージしたりできますが、日本のコンビニではもっと沢山のことができます。ざっと挙げると、カラーコピー機、予約したチケットの受け取り、グッズやフィギュアなどが当たる一番くじ、写真のプリント、ATMもありますし、さらにゲームのアイテムも貰えたりします。コンビニ一か所でいろいろなことができる、これぞ真のコンビニエンスってことでしょう。だからある程度の広さが必要なのではないでしょうか。

最後に、コンビニで買えるものの違いです。コンビニ独自で売っている商品をprivate brand商品、PB商品と呼ぶそうですが、韓国にはこのPB商品があまり多くありません。しかし日本ではこのPB商品の種類が多いです。パン、お菓子、飲み物などの種類も多く、とても美味しいです。各コンビニによる差別化も良くできていて、正直韓国にもあってほしいと思うよい点です。

PB商品以外にもコンビニ弁当やおにぎり、おかずも多彩です。フライドチキンやその他の揚げ物もお店で揚げるので熱々でとても美味しいです。

種類が多いのは食べ物だけではありません。雑誌や日用品などは韓国のコンビニよりかなり多彩で品ぞろえ豊富です。

こうしていくつか挙げて説明してみると韓国と日本のコンビニの違いを感じることができます。日本のコンビニの良いことばかり言った気がしますが、私はどちらのコンビニもそれぞれ良いところがあって便利だと思います。

皆さんも旅行へ行った時には、その国のコンビニに行ってみてください。韓国のとは違う面白い発見があると思います。

最近青少年のコミュニケーション問題について

이정민(イ・ジョンミン)

皆様は最近、私たちの社会の問題として何があると思いますか？暴力？それとも他のものがありますか？いろいろな問題が多いですが、今日私はその中で最近話題になっている、最近青少年のコミュニケーション問題について取り上げようとしています。それでは、その問題はどれがあるのか今日のこの時間、皆様と一緒に調べてみます。

最初の問題は、会話の断絶です。皆さんは普段、家族とどのくらい会話をしていますか？よく話す方もいれば、まあまあ話す方もいると思います。しかし、最近の青少年の中には、家族と全く会話をしない人がいるという事実をご存知でしょうか？思春期は独立性を求める時期であるため、家族とある程度距離を置くことは自然なことです。そのため、「特に悪いことではないのでは？」と思う方もいるかもしれませんが、それではこの「会話の断絶」はなぜ問題になるのでしょうか？

現在、問題視されている「会話の断絶」とは、過度なインターネットと電子機器の使用によるコミュニケーションの不足を指します。インターネットの世界にさらされている青少年は、2019年に発生したコロナウイルスの影響で自宅にいる時間が増えた結果、インターネットや電子機器の使用時間が増加し、容易に中毒状態に陥ってしまいました。そのため、同年代や周囲の大人と対面する機会が減少し、青少年たちはいつの間にか「会話」というものを忘れてしまったのです。結局、青少年が電子機器に依存するようになり、人とのコミュニケーションが減少することは、私たちの社会が必ず考慮しなければならない重要な問題です。しかし、このように重要なコミュニケーションの問題は、これだけではありません。

第二の問題は、読解力や語彙力の低下です。皆さんは「사흘」と「금일」が何を意味するかご存知ですか？はい、それぞれ「3日」と「今日」という意味ですね。このように、私たちに慣れ親しんでいる言葉が最近の青少年たちには馴染みのない言葉となっているらしいです。その理由は何でしょうか？

前述のように、最近の青少年たちは幼い頃からインターネットの世界に深く触れながら成長してきました。幼い頃から青少年たちは電子機器との接触が容易で、その分簡単に楽しさを感じるようになり、青少年たちは退屈だという理由で小説や詩のような文章を読まなくなりました。そのため、さまざまな単語に触れる機会が減り、長い文章を読む習慣も失われてしまいました。特に最近発展している生成型AIの助けによって、自分で文章を書く機会さえ減少し、青少年たちの語彙力は自然と低下しています。

このように、青少年のコミュニケーションの問題は単なる言語の問題ではなく、私たちが共に解決していかなければならない重要な社会的課題です。私たちはこの変化の正しさや間違いを判断するのではなく、この変化をどのように受け入れるかを考えなければなりません。今後も私たちの社会が、今日紹介したコミュニケーションの問題だけでなく、他の社会的変化や問題についても共に考え、解決していけることを願っています。